

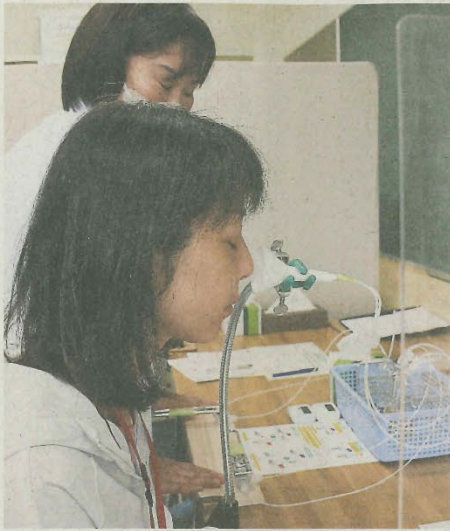
香りの感じ方、運転時の危険予知

項目追加 より多角的に 弘前・岩木健診20年目スタート

弘前市岩木地区住民の健診データを集めて健康づくりに役立てる「岩木健康増進プロジェクト健診岩木健診」が20年目を迎え、10日間にわたる事業が1日、同市中央公民館岩木館などで始まった。約3千項目に及ぶ検査には、今年も香りの感じ方や運転時の危険予知といった項目が新たに加わるなど、年々多角的になり、大手企業や研究機関が健康商品・サービスの開発に役立てている。

岩木健診は弘前大学と市、県総合健診センターが主催。20歳以上を対象で、1日当たり約1200人の計1200人が4〜5時間かけて55のブースを回り、身長体重や身体能力、腸内環境など体のデータのほか、睡眠時間や食事など生活環境を調べる。今回からは岩木地区以外の市民約200人も参加した。

初出展の自動車メーカー・マツダのブースでは、参加者に交差点を右折する場面



【写真上】香りの感じ方や体や心の状態との関係などを調べる検査「同下」自動車運転時の注意の払い方などを調べる検査



に交差点を右折する場面の画像を見せて安全確認が必要な場所をタッチしてもらい、注意力と年齢や運転経験などの関係を調べ、運転サポート機能の開発などに役立てる。

資生堂のブースでは、香りを嗅いで「心地よさ」「どんな感情になったか」などを回答してもらい、体や心の状態によって香りの感じ方がどう変わるかなどを調べる。

同市の柴田美穂さん(37)は「無料でいろいろな検査が受けられ、味覚検査などもあって面白い」と話した。毎年膨大な種類と量のデータが集まる岩木健診は大

手企業や研究機関が注目。今年には資生堂、花王、味の素、カゴメ、京都大学など32社・団体が調査に参加した。資生堂の香料開発グループの森山未央グループマネジャーは「私たちの研究とさまざまな健康データとの関連性が分かるのがいい」と話した。

世界の健康づくり拠点に 弘大・中路特任教授

岩木健診を20年間けん引してきた弘前大学の中路重之特任教授(72)＝写真＝は、初日の1日も会場受付に立ち、住民らを出迎え。「あっという間の20年間だった」と振り返った。

—この20年の成果は。

「たくさんの人(研究者や研究機関・企業)が集まるようになった。データがあるから人が集まり、資金が集まる。短命県返上の全ての活動も、岩木が起点となり、枝を出してきた。岩木の人たちのおかげだ」

—膨大な検査項目が特徴だ。

「健康は単純じゃない。いろんな要素が組み合わせられて健康があるから、それを調



べなくてどうするの、と。(20年前は)誰もやろうと思わなかった。『いっぱい測って、バカなの』と言われた」

—今後の展望は。

「弘前を日本の、そして世界の健康づくりの拠点にしたい。(健診データを)医療や介護、福祉などのデータと組み合わせ、世界初のリアルワールドデータができれば、いろいろな人が集まって研究や健康づくりができ、経済活動にもつながる。地方創生になる。夢は大きいですよ」

(まとめ・赤田和俊)